

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	個々の障害の状況と心身の発達に応じた教育活動をととして、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るとともに、人間性豊かにたくましく生きる幼児児童生徒を育てる。(1)意欲的で自主性のある子(2)豊かな情操を持ち、協調性のある子(3)健康で、たくましく生きる子(4)豊かにコミュニケーションできる子														
(2) 現状と課題	(現状) 在籍幼児児童生徒数20人の小規模校であるが、子どもの教育的ニーズが多様であり、きめ細かな対応が必要である。聴覚障がい教育の充実に取り組みつ、地域の特別支援教育のセンター的機能を果たしている。人事異動による在勤年数の減少に伴い、聴覚障がい教育の専門性の維持・継承が難しくなってきた。 (課題) 将来的に地域で自立した生活ができる人材を育成するために、子ども達が地域の特色を知り、地域の中で活動できるようにするために地域の理解と協力を得るところが今後の課題である。														
(3) 重点目標	<table><tr><td>1</td><td>運動の習慣化と体力の増進、健康に関する知識と技能の定着、食育の充実、危険を予測、回避する能力の育成により、健康で安全な学校生活を送れるようにする。</td></tr><tr><td>2</td><td>基礎的・基本的な学習の定着、探求的な学び、興味関心を広げる学習により、授業の充実を図る。</td></tr><tr><td>3</td><td>道徳教育の充実、自己有用感、自己肯定感を高める学習活動、互いの良さを認め合える活動、自分を表現できる力の育成により、豊かな心とコミュニケーションを養う。</td></tr><tr><td>4</td><td>保護者と連携した教育活動、学校運営協議会の学校運営への参画、地域資源を生かした学校行事や校外活動、障がい理解のためのゲストティーチャー派遣、教育相談により、地域貢献を図る。</td></tr><tr><td>5</td><td>キャリア教育の充実、情報化や国際化に対応する教育の推進により、時代のニーズに応じた教育の推進を図る。</td></tr><tr><td>6</td><td>業務の仕分けと整理整頓、年休の計画的消化の促進により、働きがいのある教員の働き方について改革を推進する。</td></tr><tr><td>7</td><td>服務規律を遵守しつつ、学校組織としての在り方を共有し、実行力(成果責任と業務遂行責任)の向上を図る。</td></tr></table>	1	運動の習慣化と体力の増進、健康に関する知識と技能の定着、食育の充実、危険を予測、回避する能力の育成により、健康で安全な学校生活を送れるようにする。	2	基礎的・基本的な学習の定着、探求的な学び、興味関心を広げる学習により、授業の充実を図る。	3	道徳教育の充実、自己有用感、自己肯定感を高める学習活動、互いの良さを認め合える活動、自分を表現できる力の育成により、豊かな心とコミュニケーションを養う。	4	保護者と連携した教育活動、学校運営協議会の学校運営への参画、地域資源を生かした学校行事や校外活動、障がい理解のためのゲストティーチャー派遣、教育相談により、地域貢献を図る。	5	キャリア教育の充実、情報化や国際化に対応する教育の推進により、時代のニーズに応じた教育の推進を図る。	6	業務の仕分けと整理整頓、年休の計画的消化の促進により、働きがいのある教員の働き方について改革を推進する。	7	服務規律を遵守しつつ、学校組織としての在り方を共有し、実行力(成果責任と業務遂行責任)の向上を図る。
1	運動の習慣化と体力の増進、健康に関する知識と技能の定着、食育の充実、危険を予測、回避する能力の育成により、健康で安全な学校生活を送れるようにする。														
2	基礎的・基本的な学習の定着、探求的な学び、興味関心を広げる学習により、授業の充実を図る。														
3	道徳教育の充実、自己有用感、自己肯定感を高める学習活動、互いの良さを認め合える活動、自分を表現できる力の育成により、豊かな心とコミュニケーションを養う。														
4	保護者と連携した教育活動、学校運営協議会の学校運営への参画、地域資源を生かした学校行事や校外活動、障がい理解のためのゲストティーチャー派遣、教育相談により、地域貢献を図る。														
5	キャリア教育の充実、情報化や国際化に対応する教育の推進により、時代のニーズに応じた教育の推進を図る。														
6	業務の仕分けと整理整頓、年休の計画的消化の促進により、働きがいのある教員の働き方について改革を推進する。														
7	服務規律を遵守しつつ、学校組織としての在り方を共有し、実行力(成果責任と業務遂行責任)の向上を図る。														
(4) 結果の公表	学校運営協議会委員や保護者、教職員には、結果を書面で配付し、学校運営協議会や保護者集会、職員会議で説明した。その他に学校のホームページで公表する。														

学校整理番号	特5
学 校 名	青森県立八戸聾学校
対象障害種別	聴覚
自己評価実施日	令和 7年 1月 22日(水)
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 6日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 11名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・運動の習慣化と体力の増進 ・健康に関する知識と技能の定着 ・食育の充実 ・危険予測・回避能力の育成	朝の時間や体育で運動する機会を確保すると共に、健康観察や給食等で健康に関する指導、避難訓練による指導を行う。	朝や体育での運動、運動後の汗の始末や手洗い、食事の取り方を指導することにより、運動することを楽しみ、嫌いな食べ物も少しは食べようとするが増えてきた。	B	幼児児童生徒の食事量や栄養のバランス、好み等を考慮した給食や寄宿舎の食事が提供され、自校給食の良さが現れている。	気温の急激な変化により体調を崩すことが見られるため、エアコンによる室内温度の調整の他に、気温に応じた服装や汗の始末などを徹底する必要がある。
2	・基礎的・基本的な学習を定着させるための授業 ・探求的な学びができる授業 ・興味関心を広げる学習	実態を的確に把握し、興味・関心のある学習を取り入れ、子どもの思考を促す学習を行う。	教科等の学習内容に応じて体験や見学に出かけたり、外部人材を活用したりすることを通して、興味関心を広げ、探究する学習を設定することができた。	B	手話を使用した授業が行われ、聴覚障害教育の専門性の維持・継承が図られている。今後も維持・継承の継続が大切である。	全教員の手話スキルの向上ために校内での手話研修の充実を図る。また、授業研究に取り組み、教科指導やICT活用のスキルの向上を図る。

3	・道徳教育の充実 ・自己有用感や自己肯定感の高揚 ・互いの良さを認め合える活動 ・自分を表現できる力の育成	道徳の時間や特別活動、その他の教科でも学習する機会を設定する。	自分の良さや相手の気持ちを考える機会を設定したり、トラブルが生じたときにその都度指導することで、相手を気遣いながら行動する様子が見られた。	B	できるだけ複数で活動する場面を増やすことで他の人のよさを感じることがあり、コミュニケーションの力を育てることにもつながる。	幼児児童生徒の自己有用感や自己肯定感を十分に評価できていない。互いを認め合う活動を今後も実施しながら、評価方法を検討する。
4	・保護者と連携した教育活動 ・学校運営協議会の参画 ・地域資源を生かした教育活動 ・障がい理解のための地域支援	校外学習や外部講師による学習、学校運営協議会における熟議の推進を行う。	学校運営協議会の熟議に生徒が参加し、要望を伝えたことにより、学校運営協議会委員が要望の実現に向けて具体化し、一部の要望を叶えることができた。	A	学校運営協議会の熟議に生徒が参加したことで、生徒の希望や気持ちがわかり、具体的なことを検討することができた。	八戸の特色を知る活動（アイラブ八戸）の充実を図るために今後も継続すると共に、学校運営協議会委員や地域の方々の参加する機会を設定する。
5	・キャリア教育の充実 ・情報教育の推進 ・国際理解教育の推進	キャリアパスポートを活用して将来を考えると共に、ＩＣＴ活用による情報収集に努める。	校外に出かけての調べ学習、ＡＬＴによる外国語活動、ＩＣＴを活用した学習などを活発に取り入れ、推進することができた。	B	調べたいことを確認してからＩＣＴ機器を活用して将来のことや地域のことを調べ、実際に体験することで学習が充実されている。	地域のことを調べたり体験したり、ＩＣＴ機器を活用して海外の情勢を調べたりすることを各教科等の授業に位置づける。
6	・業務の仕分けと整理整頓 ・分掌、会議、書類のシェア ・働きがい ・年休の計画的消化	二つ以上の業務の削減や縮小、年間17日以上年休の取得を推進目標として設定する。	業務を精選し、効率よく業務を行うことに努めた。全職員17日以上年休取得はできなかったが、職員の時間外勤務時間は平均13.8時間であった。	A	時間外勤務時間はさほど多くはなく、年休取得の目標は達成されていないが14時間程度で多く、働きやすい職場である。	組織的に年休取得を促し、授業に支障のない範囲内で、教員が交代で年休を取得できるよう計画する。業務削減案を着実に実施することで業務を削減する。
7	・組織としての実行力 ・学校組織としての在り方 ・服務規律の遵守	服務規律に関する資料を提示して徹底を図ると共に、職員室で気軽に話し合える雰囲気醸成する。	授業での幼児児童生徒の様子を職員室で語り合い、授業を見直す機会が得られていた。交通違反や体罰やセクハラなどの服務規律違反はなかった。	A	職員室で幼児児童生徒や授業について語り合う雰囲気があり、教員間の同僚制性がある程度保たれ、教員としての服務規律が遵守されている。	携帯電話のマナーモード設定、私的なことを大声で長時間話さない、音楽などを流す際に音量を調節するなど、職員室内のマナーの向上を図る。
(11) 総括		児童生徒、保護者、教職員（教員、寄宿舎指導員、事務職員）、学校運営協議会委員によるアンケートを4件法で実施した。児童生徒の評価は平均3.57、保護者は平均3.74、教員は平均3.49、寄宿舎指導員は平均3.90、事務職員は3.98、学校運営協議会委員は平均3.72でいずれも高評価であった。今後は、地域の中でたくましく生きる人材を育成するために、学校運営協議会を効果的に活用しながら教育活動に地域の特色を探る学習を積極的に取り入れていく。				